



今回は、『陶遊』読者とのコラボレーション企画なので、読者参加者の作品は、窯のほぼ中央部分に窯詰めした。



薪の炎が直接当たるので炎が



型の作品には、棚板にから正面を決定する、 ていた。 高温度は 当たる部分や炎の流れを十分注意 1 2 3 0 もだいぶ馴染んできている。今回で21回目になるため、 砂以外に厚手のアルミナペまう恐れがあるので、同窯 を棚板の上に敷いている。 しなくてはいけない。 窯詰め時の注意は、 、棚板に接着してし 定する、皿などの平 注意は、作品の形状

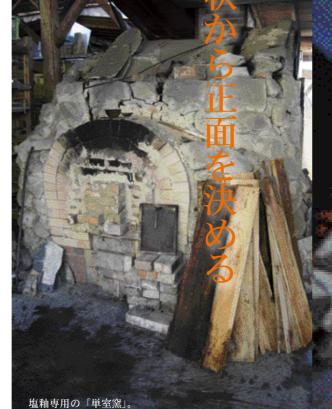
ミナペーパー同窯では珪

い、作品の裏側のダメージが大きれすぎて棚板にくっついてしま この場合、どうしても釉薬が流 2 5 0 ℃ 80℃だが、 Cまで昇温したが、当初は こている。 最

## 窯詰め時は

品品

棚板は全部で4枚。平面図の右横かた見た窯内の様子。茶碗、ぐい呑、花器なので火前、火奥などはあまり 考慮せずに窯詰めした。



今回の応募点数は52点と、

り窯」で行われた。

にかけて山梨県富士

川町の「増穂登

穴窯焼成イベントに比べ大幅に

編をご覧いただき、

0)

<塩釉焼成スケジュール>

◎焼成時間 40時間 ◎最高温度 1180℃ 塩投入 ◎窯出し日 11月29日

○火入れ 11月22日16時~

2014年11月20、21、22日

◎窯詰め

成の取材はかなり

そういった意味では

といわれ、その魅力に触れて

塩釉は、日本では「稀有なやきもの

窯焼成の参加者であった。

ったものの、

うち8割の方々は穴

釉焼成」が、昨年11月20日から29日

窯だ。棚板は4枚分(写真参照)だ。怪は内寸法が1m角になる小さな焚き口から最奥まで全長3m、直 穂登り窯の中で塩釉専用の窯で、 れる窯は「単室窯」。 今回の塩釉焼成イベントで使

品は中段より上に、赤土系の作品60℃。これを利用して白土系の作温度差は上段と下段とで約50~温度差は上段と下段とで約50~温度差は上段と下段とで約50~

する。 は下段とおおまかに分けて窯詰め また、 正面から見て手前2枚に

## 最高温度 180℃で塩を投入する。

大活躍だった。

アルミナペ

パ

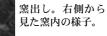
は

62

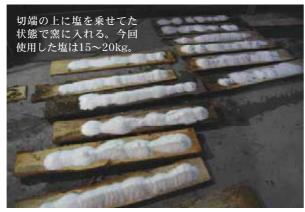
度を1180℃に設定して

- パーは

現在は温度計を設置し、









日本ではコバルトの使用 量が多いが、オーストラ リアでは、何種類かの透 明釉、鉄釉、化粧土など を施釉している。





花瓶 胴径9×高さ16cm

増穂登り窯代表 太田治孝

花瓶 胴径8×高さ17cm

オーストラリア人女性の陶芸家が塩釉焼 成に使っていたロケット窯。胴部の天井 は棚板を並べただけ。

ジ参照)など、作品のアイディアが面白照)、流紋コラーージュの茶碗(6ページ参なっている。縦縞のぐい呑(6ページ参ルリ釉の場合は、塩釉の結晶が大きく その種類と濃さ、厚さによっても表情がで、新鮮なイメージを受けた。透明釉もは、世の中にほとんど出回っていないの 濃淡によってかなり異なった焼き上がりるが、青呉須、黒呉須の種類、あるいは るが、青呉須、黒呉須の種類、あるいは陶土の種類によって表面の流れを決定す今回の陶遊読者の焼成作品を見ると、 異なっている。 い表情となっている。 塩釉の植木鉢(67ペー 次回のチャンスには、

各自の造形にどんな施釉 再度チャレンジ -ジ参照) など

しする。この時の作品が上3点だ。25時間で終了。24時間後には窯出を投入して終了する。この間、約 で以前からあった単室窯を塩釉専塩釉焼成法をもとに、増穂登り窯このときのオーストラリアでの 現在まで使用している。 ダ灰 (炭酸ナトリウム)

温度(手前) 1100 1000 39時間 色見本 塩投入 温度で 600 温度計150°C 右側閉める 500 切嫌から赤松へ変える。 前を閉める。 でないないないないないのとののことないないないないないないないないないない

増穂登り窯 単窯 第21回 塩釉焼成 温度記録 2014年11月22日~24日





焙り。

火入れ。



温度計以外のデー

夕を必要とす

内温度とが同じとはいえないので、温度計の入れる場所と炎の流れな温度計の温度と窓どを考えると、温度計の温度と窓で、ほとんどアルミナペーパーはで、ほとんどアルミナペーパーは

赤松を用意する。

右横の閉める。



400℃になったら正面焚き口も閉める。 温度計を指す。

釉焼成との出会い

介で知り合った女流陶芸家の工房友人宅に泊まった際に、友人の紹にオーストラリア・ブリスベンのにオーストラリア・ブリスベンののがは、15年前 へ見学に行った時だった。

当然作品の窯詰めもそこから出 の上に耐火レンガを乗せた。 めが終了すると、棚板で閉 入れした。 窯詰め後は正面の焚き口からガ 焙る。 4 5 5 あるいは灯油バーナ その後1 棚板で閉め、そのの長さに窯詰 0 0

63





長谷川文子 (埼玉県) 抹茶茶碗 口径15×高さ15cm 粘土/灰かぶり土

[感想] 塩釉作品はなかなか見るこ とがないため、このような企画を開 催していただき感謝しております。 本当に見たことがない焼き上がりに 感動しており、我が家の家宝にした いと思います。



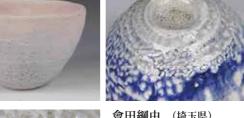


小林一雄 (埼玉県) 抹茶茶碗 口径15×高さ10cm 粘土/古信楽土 装飾/古代呉須

[感想]「塩釉焼成の作品については、陶遊の写真、窯元の展示等 で観て、イメージがありましたが、今回の焼き上がりはイメージ とほど遠いものでした。土は唐津、素焼き後、表に古代呉須を筆 塗りしましたが、呉須の青い色がマット状に表出し、期待してい た塩釉の白い(結晶、チジレ)の表情がまったく現れていません でした。今回の焼成結果は今後の参考データになればと思います。









會田綱由 (埼玉県) 抹茶茶碗 口径15×高さ9cm 粘土/信楽並コシ、もぐさ土 耐火土、信楽硝石

[感想] このたびは、塩窯焼成イ ベントに応募して、塩釉作品の 魅力と大きな感動を受けました。 塩釉の流れと色合いに驚き、想 像以上の焼き上がりでした。次 回はもっと作品を研究して、ま た、ぜひ参加したいと思います。





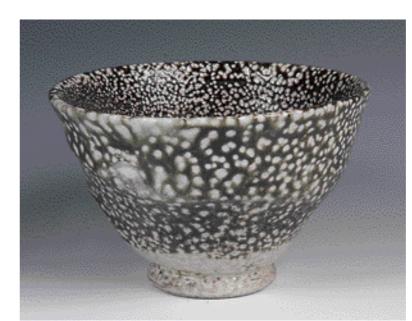
竹内半蔵 (千葉県) 湯呑 口径7×高さ8cm 粘土/信楽特コシ、もぐさ土 装飾/呉須、ベンガラ [感想] このたびは塩窯焼成で、思いも寄らない立派な作品に焼き 上げていただき、感謝いたしております。湯呑は私と家内用に2 個作り、鎬を入れて呉須を塗りました。次回もぜひ参加を希望い たします。

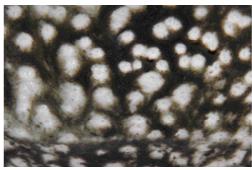




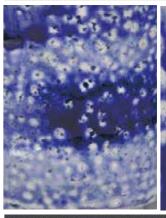
田端浩一 (兵庫県) ぐい呑 口径5.5×高さ5.5cm 粘土/赤土 装飾/呉須

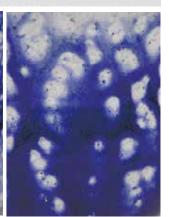
[感想] 塩窯焼成は初めてです。お願いしたぐい呑は鉄分の多い黒 泥土を用いて、側面には鎬(しのぎ)風の削りを施してから白化 粧土を塗りました。送られてきた焼成作品は漆黒のようななんと も言えない味わいで、特に内側は黒楽の趣でたいへん嬉しくなり ました。不思議なのは焼成時の薪の自然釉がまったくない?こと です。どうしてでしょうか? 焼成過程や塩の投げ込みのタイミ ングなど、塩釉焼成リポートが待ち遠しいです。







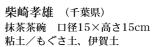






中野勝 (千葉県) 湯呑 口径7×高さ7cm 粘土/益子皿土、古信楽土 装飾/呉須、るり釉

[感想] 塩釉には以前から興味がありました。流れたような「縮れ」 がどうしてできるのかという点と、高温の窯の中に食塩を投げ込 めば窯の損傷や有害なガスが発生することも考えられ、簡単にど こでもできるやきものではないと手が出ませんでした。そんな時、 陶遊の塩釉焼成イベントの記事をみて即日応募しました。作品の 装飾部分は、陶遊に掲載されていた参考記事をもとに湯呑と抹茶 碗を成形し、見本写真に倣って白化粧と、呉須、ルリ釉をかけて 送りました。焼き上がりは塩釉特有の表情は出ていたものの、以 前ギャラリーで見た細かく縮れて流れた外観と異なり、全体に粗 い感じがしました。特にルリ釉は粗く縮れが少なかったです。釉 の厚み、粘度、塩の掛かり具合によるのでしょうか? 呉須は薄 掛けの方が縮れが細かいが流れた感じが少ないようでした。一発 勝負ではなかなか目標どおりにはなりません。またチャンスがあ れば挑戦したいと思いました。



[感想] 塩釉作品は見る機会も少なく、自分で焼成でき る窯の用意もなく、一種の憧れでした。そのため、多 くの期待を込めて素焼きまで終え、装飾は陶芸経験の まったくない妻が青呉須と茶呉須を吹き付けて完成し た合作です。私事ですが、「安房ビエンナーレ展」出品 のための作品制作中に落下事故を起こしてしまい落胆 しておりましたが、私も妻も初めての塩釉作品のでき 栄えに満足しています。こうした素晴らしい企画が第 3弾、第4弾と続けていただけると嬉しいです。





清水憲素 (東京県) 湯呑 口径12.5×高さ8.5cm 粘土/信楽土

[感想] 塩釉作品は見たことがなかったので、太田代表に連絡して実物を見に増穂登り窯まで伺いました。いろいろアドバイスは受けて作陶したのですが、結果的にはこれが塩釉作品としてどの程度の焼き上がりなのか、満足と呼べる域なのか自分には今ひとつわかりません。できれば、太田代表に品評をいただければと思います。





松井康仁 (神奈川県)

盆栽鉢 口径15×高さ15cm 粘土/赤1号

[感想] このたびは、塩窯焼成イベントに参加させていただきありがとうございます。今まで見たことのないような味わいのある作品になり、とても満足しています。また、今回は特別に鉢も引き受けてくださり、普段では出せないような色合いに仕上がりました。大切に使わせていただきます。ありがとうございました。また、このような企画をぜひ紹介してください。



野田華子 (神奈川県) 抹茶茶碗 口径15×高さ9cm







鈴木俊明 (宮城県)

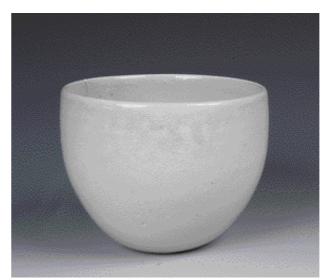
ぐい呑 口径5×高さ6cm 粘土/古信楽土(荒目) [感想] 今回、塩釉を始めて体験しましたが、焼き上がりは思った よりもおとなしい感じでした。ただ、部分的にビードロ状のガラ ス面が縮れた箇所もあり、気に入っています。リスクのある焼き 方なので、個人ではなかなかできません。今回のようなイベント 企画はとても良いと思います。また次回もイベントありましたら 参加してみたいです。楽焼きをしてみたいです。





神田陽子 (東京都) 湯呑 口径6×高さ5cm 粘土/信楽赤土、信楽黒土

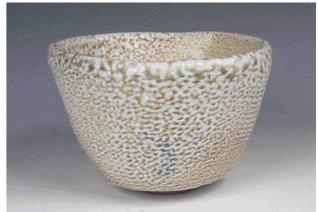
[感想] たいへん貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。小さな陶芸教室で7年勉強していいます。ふだんは灯油窯で焼いていただいています。初めての塩窯焼成でどんな色に焼けるのかワクワク楽しみに待っておりました。思っていた作品とは、まったく違う色艶に焼き上がりました。またチャレンジしたくなりました。次は窯焚きや窯出しを見に行けたらもっと良い体験になると思っています。これからもまだまだ勉強していきたいと思います。



木口泰広 (長野県) 抹茶茶碗 口径10.8×高さ9.3cm 粘土/白土

[感想] 焼成イベント2回目の 参加でした。前回とは違った 色でと思い、白色で焼いてい ただきました。とても想像で きない素晴らしい色合いにと ても満足です。次回も、また 違った色で参加させていただ きたいと思います。





横溝智子 (埼玉県) 抹茶茶碗 口径15×高さ15cm 粘土/灰かぶり土

[感想] 前回の薪窯焼成のあの感動が忘れられず、参加させていただきました。送られてきた作品を見てはニヤけております。まったく違った焼き上がりで2点お願いして良かったです。厚く、重く、形



も……と、まだまだですが、ずっと陶芸を私なりに続けていこうと思っています。良き仲間とともに。





鳥海久江 (東京都) 湯呑 口径8×高さ8cm 粘土/ブレンド土 装飾/呉須、白化粧

[感想] 素焼き後に白化粧を吹き付け、その上に呉須で筆塗りと線描きを入れました。最初は成形時に施した帯状の文様に塩釉がどのようにかかるか考えていましたが、呉須が面白い味を出している作品を見て変更しました。塩窯焼成は初体験なので、どのように焼き上がるのかドキドキでした。想像以上のでき栄えで嬉しかったです。さっそく、茶を点てお酒をいただきました。器談義に花が咲き、いつものお茶もお酒もとても美味しく、楽しいひと時をいただきました。焼成いただいた皆様にとても感謝いたしております。ありがとうございました。

67